国際ジャーナル JOURNAL

THE INTERNATIONAL GRAPHIC JOURNAL

12

Dec. 2008

VOL.26 NO.327

表紙：（左から）尾高宏 取締役副社長、河原春郎 代表取締役会長、
佐藤国彦 代表取締役社長、足立元美 取締役（JVC・ケンウッド・ホールディングス 株式会社）

巻頭特集

結婚に「活動」が必要な時代

結婚にも存在する“格差”とは

特別企画～地域に生きる～

■企業は人なり～その人物像を探る　■職人に訊く　■暮らしを支える医療福祉

■逸店探訪　■社寺聴聞　■学びの現場から　■EXPERT'S EYE

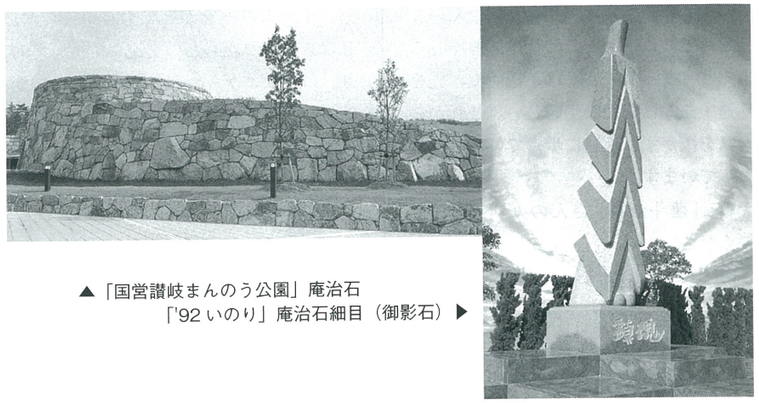
The Artisan Spirit
Interview of
技から伝わる心意気

職人に訊く

受け継がれた伝統を守り 庵治石を熟知する職人集団 「石材商 太元屋（だいげんや）」の技が光る

地域に生きる●職人に訊く～技から伝わる心意気

庵治石の採掘、庭石・墓石・慰霊塔・モニュメントなどへの加工を手掛け、地域の人々から長年愛されている「石材商 太元屋」。代表取締役を務める藤岡裕秀氏は、次世代に技術を伝えるべく後進の育成に力を注ぐ構えだ。同社を女優の大沢逸美さんが訪れ、藤岡社長と子息の和泉憲氏にお話を伺った。



▲「国営讃岐まんのう公園」庵治石
「'92いのり」庵治石細目（御影石）▶

大沢　「石材商 太元屋」では庵治石の採掘、庭石・墓石などの加工を手掛けておられるとか。まずは藤岡社長の歩みからお聞かせください。

藤岡　私は1945年にここ牟礼町で生まれました。誕生日は大沢さんと同じで、3月23日なんですよ（笑）。私の父は、山で石の採掘をする仕事をしていました。そんな父の姿を見て育った私は、学業修了後父の下で働くように。父からは「どこの石屋に行っても通用する職人になれ」と厳しく指導されました。私には兄がおりますので、後継を兄に任せて「いずれは独立しよう」と思いながら採掘の仕事に励んでいました。ところがある日、台風によって山が荒らされ、採掘ができなくなったんですよ。それで私は他所の石屋に転職しました。そちらでは採掘だけでなく、加工も手掛けており、8年間勤務して加工の技術を身につけました。そして縁あって独立したんです。

大沢　こちらの特徴をお伺いします。

藤岡　採掘・加工の両方を行っていることです。実は昨今、この業界は分業化が進んでおり、採掘も加工も手掛けている石屋というのは少ないんです。石材組合も「採掘」と「加工」に分かれているんですよ。だから私共は両方の組合に入っています。また、当社は庭石や墓石だけでなく、慰霊塔・モニュメント・仏像など様々なものへ加工しています。庵治石の加工なら、何でも当社に任せていただきたいですね。

大沢　お仕事の上で、社長が普段から大事にしておられることを教えてください。

藤岡　真心を込めて加工をする――この一言に尽きます。技術だけでなく真心を込めているかどうかで、製品の出来は大きく変わります。当社が扱っている庵治石というのは、高級なもの。お客様は高いお金を出して製品を購入してくださるんです。それに例えば墓石は、車などと違って買い換えないでしょう。一度つくったものを代々使います。だからこそお客様には心から満足していただきたい。そのためにも私は常に真心を込めて加工をしているんです。

大沢　働く上での社長の原動力とは何でしょう？

藤岡　家族ですね。私が幼少の頃、家庭は経済的に苦しい時期がありました。だから自分の子どもには少しでも楽な生活をさせてやりたいと思っています。仕事で疲れた時など、いつも家族の顔を思い浮かべていますね。

大沢　和泉さんは、社長のご息女との結婚後、こちらの会社に入社されたそうですね。

和泉　ええ。当社に正式に入社する前から、別の会社に勤めながら土日のみこちらで働いていたんです。当時から当社のスタッフとは打ち解けていました。だから、自然な流れで当社に入社することになりましたね。石工の仕事はとてもやり甲斐があります。

大沢　和泉さんからご覧になって、社長はどのような方ですか？

和泉　一言で言うと「厳しい人」です（笑）。それに職人として素晴らしい腕を持っています。私はこの業界におよそ10年いますが、社長の技術レベルにはまだまだ追いつけません。

大沢　なるほど。昨今、後継者の不足に悩む経営者は多いと言います。その点、こちらでは後継者がしっかりと育っておられるようで安泰ですね。

藤岡　はい。息子が入社するまで、当社は私一代でやめてもいいと思っていました。だから、入社してくれて本当に嬉しい。息子の入社後、私はより経営に力を入れており、事業の拡大を図っているんです。今よりも土台を固めてから、息子に引き継ぎたいですからね。

また、石工が少なくなっていますので、若い石工を育てたいと思っているんです。職人の技を後進にしっかりと伝授したいと考えています。日本の職人は、他国の技術者には真似できない素晴らしい技を持っています。息子にはその技をきちんと身につけてもらいたい。そして、それをさらに若い世代へ伝えてほしいですね。私もまだまだ頑張ります。

（取材／2008年8月）

ゲスト 大沢 逸美
GUEST INTERVIEWER

「藤岡社長の言葉から ご家族への愛情が伝わってきました」

「藤岡社長の奥様曰く、社長は努力家で何事にも一生懸命な人とのことでした。そして奥様はとても明るい方。奥様の存在は、仕事をする上での社長の支えになっているのだろうと感じました。また、対談を通じて、社長の言葉からご家族への愛情がひしひしと伝わってきました。素敵なご家族ですね。社長には今後も頑張っていただきたいです」

「お客様の側に永くある製品だから 心から満足していただきたい。 いつでも真心を込めて加工します」

代表取締役　**藤岡 裕秀**

《これまでの社長の歩み》

香川県高松市牟礼町出身。一九四五年生まれ。学業修了後、父の会社に入社して石の採掘に従事。その後、他所の石屋に勤め、加工の技術を身につけた。採掘・加工の両方の経験を活かして、「石材商 太元屋」を興した。

TOP INTERVIEW

COMPANY PROFILE

庵治石採掘・庭石・墓石請負

㈲石材商
太元屋

香川県高松市牟礼町牟礼 3720-360
TEL 087-845-1114（イイイシ）

和泉 憲

一意専心 能工巧匠

庵治石を愛し、従業員とその家族を大切に

▼庵治石は花崗岩の一種であり、黒雲母・石英・正長石・斜長石を主成分としている。結晶が極めて小さく、結合が緻密なため、ほかの花崗岩に比べてより硬いのが特徴の一つだ。また緻密ゆえに水を含みにくく、風化・変質にも強い。彫られた字が崩れたり、変色したり、艶がなくなったりすることもないと言われている。庵治石の歴史は古く、平安時代後期から採石使用され、京都に出荷されていたという。

▼「私は庵治石が好きです」と藤岡社長は語る。社長は庵治石と共にこれまでの人生を歩んできた。そして、今後もその歩みは変わらない。庵治石を熟知し、共に人生を歩んできた“旧友”として、後進育成に注力する構えだ。職人として仕事に生きてきた社長は、従業員やその家族も大切にしている。「私は一人で今日まで歩んできたのではない。従業員あってこその『石材商 太元屋』」――それが社長の考えだ。

記念撮影

(087) 845-
DAIGENYA